第1部

音韻障害を併せ持つ吃音幼児の
アセスメント及び指導経過における特徴の検討

第1章　目的

第 1 部においては、発吃 1 年未満の音韻障害を併せ持つ吃音児の（1）非流暢性発話、音韻過程の特徴と、その継時的変化、(2) 発達スクリーニング検査における特徴とその継時的変化、(3) U 仮説（内須川, 早坂, 1989; 内須川, 1990; 早坂ら, 1998）に基づく吃音治療を実施する際にみられる吃音の悪化、維持条件の推移について検討を加えることで、音韻障害を併せ持つ吃音児の非流暢性発話、音韻過程、認知・言語・運動などの発達状況、臨床過程における特徴について検討を加えることを研究の目的とする。